

横書原稿用紙

鹿川原稿

天

每块

4	0	0	字	詰
正	5	0	枚	綴

八重山群島西表島 廃村鹿川の
生活復元

安溪遊地

目次

I. 緒論

1. はじめに、
2. 調査の方法

II. 自然環境

1. 位置
2. 地形, 地質
3. 気象
4. 植物相
5. 動物相

III. 崎山半島の歴史

1. 人頭税以前 A. ヒサトウム B. マイトウム C. ウビウム
2. 人頭税時代 A. 鹿川村 B. 網取村 C. 崎山村
3. 炭坑全盛期
4. 戦中・戦後

IV. 廃村

1. 西表島の廃村
2. 廃村化の原因
3. 鹿川廃村へのルート

V. 遺構

1. 分布

2. 分類.

A. 道路. 石段. 橋.

B. 住居跡

C. 水場.

D. 墓. (i) a. (ii) b. (iii) c. (iv) type.

E. 祭祀場.

3 住居跡の試掘

VI 遺物

1. 人工遺物とその分類

A. 焼きもの.

(i) 素焼き.

a. パトリ焼き

b. 八重山焼き.

c. その他.

(ii) 施釉陶磁器.

a. 沖縄産の^{シロヤク}上焼

b. 中国産の陶磁器

c. 日本産の陶磁器

B. 金属製品

(i) 鉄製品

Ⅱ 銅製品

C. ガラス製品

D. 砂岩製品 その他

2. 自然遺物

A. 貝類

B. 獣骨

C. 人骨

3. 遺物と遺構の相互関係

A. 分布からみた遺物の性格づけ

B. 遺物の出現頻度とつららの性格

Ⅲ. 植物

1. 鹿川の植生

A. ビロウ—照葉樹二次林 (低居地遺跡の
おいて)

B. 広葉樹二次林

C. 海浜林

D. ススキ—樺木草原

E. リュウキュウマツ林

F. 湿原および湿地林

G. 照葉樹萌芽林

H. 照葉樹極相林

2. 年代の推定

A. ホウライチクの株の増殖

B. 花粉分析とリュウキユウマツの年輪

3. 現存集落との比較

A. 比較の目的と方法

B. 星立の植生概観

C. 比較

の人為植生の遷移

の鹿川と星立の地域差

Ⅳ 鹿川の生活復原

A. 生活環境の復原

B. 生業の復原

C. その他

Ⅴ 討論

A. 近世の考古学という立場について

B. 調査法の評価

C. それから

謝 辞

Ⅳ. 鹿川の生活復原

(人頭税時代の鹿川の生活を)これまでの章で述べてきた物的所与を総合して描き出してみよう。現存集落や崎山、網取での知見もあり、^込み、文献や聞き込みとの対比から明らかになることにも触れておく。植生調査の結果から復原される人頭税時代の鹿川の生活環境を記述し、その各環境内でおこなわれていたと推定される生業の形態を明らかにしてゆくことにする。

1. 生活環境の復原

植生にもとづく概括的な推定によって、鹿川に集落が営まれていたこの生活圏は^{やぶ}図¹¹に示すおよそ640haの区域だったと考えることができる。^{*}他集落との交際を除き、人々の陸上での生業活動は、ほとんどすべてこの生活圏の内側でおこなわれていたにちがいない。この生活圏を鳥瞰的に見渡すと、海に面した斜面に防風林をめぐらした家々がたち

^{*}海と干潟を含まない。
2ヶ所¹²
12ヶ所¹²が場所があつた。